

## 和洋女子大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2021年度>

<改善報告書検討実施年度：2025年度>

和洋女子大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、2点の是正勧告及び4点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

### <改善に向けた大学全体の取り組み>

2022年4月に「大学評議会」及び「大学院評議会」において、改善項目や担当部署、スケジュール等を確認し、2024年度までに継続的に改善に向けた取り組みを行った。課題ごとに、学部・学科や研究科において「教務委員会」等が主体となり、「大学評議会」及び「大学院評議会」と連携を図りながら取り組みを進めた。2024年2月には建学の精神に基づく教育理念を実現するために、改めて内部質保証の方針をまとめ、大学ホームページに公開した。当該方針に基づき、学長を中心とする改善推進体制を整備し直し、段階的かつ計画的に改善に向けた取り組みを進めている。この体制のもと、今回の改善報告書において未だ改善に至っていない事項についても、引き続き改善に取り組むことが望まれる。

### <是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が概ね表れているといえる。

改善課題については、学習成果の測定における問題や学生の受け入れにおける定員管理の問題、財政基盤の確立における問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

### 1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	人文科学研究科修士課程及び総合生活研究科博士前期課程、同博士後期課程では、研究指導計画として、研究指導のスケジュールを定めていないため、これを定めあらかじめ学生に明示するよう是正

和洋女子大学

		されたい。
	検討所見	人文科学研究科修士課程、総合生活研究科博士前期課程及び同博士後期課程では、研究指導計画として研究指導のスケジュールを定め、オリエンテーションでの配付や、LMS（Learning Management System）を通じて学生へ周知していることから、改善が認められる。
No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	人文科学研究科修士課程及び総合生活研究科博士前期課程において、特定課題についての研究成果の審査基準を刊行物、ホームページのいずれの方法によっても公表していないため、是正されたい。
	検討所見	人文科学研究科修士課程、総合生活研究科博士前期課程及び同博士後期課程では、特定課題についての研究成果の審査基準を定め、ホームページにて公表していることから、改善が認められる。

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	教育課程の編成・実施方針について、総合生活研究科博士前期課程、同博士後期課程では、教育課程の編成に関する考え方を示していないため、改善が求められる。
	検討所見	教育課程の編成・実施方針について、総合生活研究科博士前期課程、同博士後期課程では、教育課程の編成に関する基本的な考え方を明示した方針を定め、ホームページにて公表しており、改善が認められる。

和洋女子大学

No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	各学部・学科、研究科において、その特性に合わせた「アセスメントツール」の開発や運用を進めているものの、各学部・学科、研究科・専攻の学位授与方針に示した学習成果との連関が不明確である。また、全学的に実施している卒業生アンケート調査や学生就職先企業へのヒアリングについても、「授業を通じて伸ばすことを目指す5つの力」を測定できるようにしているが、この5つの力と、それぞれの学位授与方針で示した学習成果の連関を明確にし、到達度を評価できる指標とするよう改善が求められる。
	検討所見	各学部・学科においては、これまで学習成果の可視化に向けて活用してきた「授業を通じて伸ばすことを目指す5つの力」に代えて、学位授与方針に基づき、学生の学修プロセス及び学習成果を可視化するための「学生ポートフォリオシステム(わよ Jam)」を導入し、学位授与方針に示した学習成果の把握に取り組んでいることから、改善が認められる。 一方で、研究科においては当該システムの導入が見られず、学位授与方針に示した学習成果の把握について他の取り組みも確認できないことから、引き続き改善が求められる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、人文科学研究科修士課程で 0.15 と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。
	検討所見	収容定員に対する在籍学生数比率について、人文科学研究科修士課程では 0.30 と低いため、引き続き改善が求められる。 なお、大学評価時には提言の対象ではなかったも

和洋女子大学

		<p>の、収容定員に対する在籍学生数比率について、学士課程全体で 0.84、人文学部こども発達学科で 0.80、国際学部で 0.58、同英語コミュニケーション学科で 0.53、同国際学科で 0.62、家政学部で 0.79、同服飾造形学科で 0.66、同家政福祉学科で 0.53 と低い。また、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、学士課程全体で 0.86、人文学部こども発達学科で 0.80、国際学部で 0.65、同英語コミュニケーション学科で 0.61、同国際学科で 0.70、家政学部で 0.81、同服飾造形学科で 0.73、同家政福祉学科で 0.56 と低いため、是正されたい。</p>
No.	種 別	内 容
4	基準	基準 10 (2) 財務
	提言 (全文)	<p>「事業活動収入に対する翌年度繰越収支差額の割合」が上昇しているとともに、「要積立額に対する金融資産の充足率」が低下しており、教育研究活動を安定して遂行するために必要な財政基盤を十分に有しているとはいえない。財政上の目標の達成状況等を検証して中・長期の財政計画を見直すとともに、見直した計画を着実に実行し、財政基盤を確立することが求められる。</p>
	検討所見	<p>事業活動収入に対する翌年度繰越支出超額の割合は、年々大きくなり、法人全体、大学部門ともに、事業活動収支差額率は改善していない。要積立額に対する金融資産の充足率も低下している。中期計画を検証しながら、学生生徒等納付金の確実な確保、収入の多様化、人件費の適正化等に取り組み、財政基盤の確立が必要である。</p>

<再度報告を求める事項>

なし

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準 2 「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	無	—
イ) 基準 4 「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	有	○
ウ) 基準 4 「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	有	×

以上